

いのちを学ぶ

南九州大創立50周年

< 5 >

南九州大は高鍋町にキャンパスがあった1970年代から、多くの場所に生け垣を造る「みどりの垣根運動」などで地域貢献活動を展開してきた。現在も各種選挙で都城キャンパスに期日前投票所を設けるなどさまざまな形で行われ、同キャンパスでは学生たちがボランティアで子どもたちの健全育成などを支援。これに対し、地元自治体や企業は学生のキャリア教育に協力するなど、連携を深めている。

子どもの健全育成支援

の教諭ら育てる人間発達学部の施設を核に行われる。「子どもの学び研究所」は教員と学生たちが小学生に算数を教える「チャレンジ算数教室」を、「子育て支援センター」では教員が子育て相談を定期的にくほか、「チャレンジ運動教室」も月1〜2回実施。宮内孝教授(体育科教育学)を中心に、学生ボランティアが地域の子どもたちの運動能力向上をサポートしている。

同運動教室などに参加する子ども教育学科4年の武永はるなさん(21)は

地域貢献と実践両立



「チャレンジ運動教室」で子どもたちの運動能力向上を支援する学生ら

「教科書で分からない実践的なことを学べる」、(22)も「保育士を目指し野邊柚衣さん(22)は「子どもとかわることが好ましく、保護者への声掛けなどが勉強になる」と、きで、触れ合えることは、将来を見据え学びの場にうれしい」と参加する意もなっているようだ。

逆に大学への貢献として地域が行う活動の一つが「夢を叶(かな)える塾」への協力。キャリア教育の課外授業で、将来どんな仕事に就きたいか考えてもらい、それを具体化させるスキルを身に付けるよう指導しており、池田宣永市長や特別支援学校教諭、企業経営者らが講師を務めた。これらの活動に、学生部長も兼ねる宮内教授は「夢を叶える塾は、外部の人が学生にチャンスをつくっている」と指摘。「ボランティア活動で学生たちは体験的学びから座学への理解も深めており、即戦力となる人材の育成にもつながっている」と、教育を主眼に置く活動という認識を示している。(鳥越真也)